

子育てと家事に関する 保護者の意識調査

目次

1. 調査にあたって
 - ・本レポートの目的
 - ・調査概要
2. 子育て・家事に関する保護者の状況・価値観
 - ・共通するもの
 - ・0～1歳児のいる家庭の保護者の特徴
 - ・2歳児以上のいる家庭の保護者の特徴
3. 問題解決の方向性
 - ・調査から見た問題
 - ・課題と解決の方向性
4. 終わりに

1. 調査にあたって

本レポートの目的

フレーベル館は今後、「『子どもたちの豊かな未来』創造のため、『子育て』に関わる全てを支援し、リードしていく存在となる」ことを会社の目指すべき姿に掲げています。

今回は、「就労中で主に0～5歳児のいる家庭の保護者」を対象に、「子育て」「家事」「仕事」の場面に着目したインサイト調査を実施しました。

本レポートは、調査を通して見えてきた保護者の「ベースにある価値観」「抱えている問題」を抽出し、子子研として「取り組みたい課題」及び「解決の方向性」をまとめています。

調査を通して保護者の子育て、家事、仕事に関する「こだわり」や「ストレス」を問い直し、そこに潜む本人も気づいていないような課題を洗い出すことで、子育ての本質的な課題解決のために我々にできることを検討していきたいと思えます。

調査の背景と概要

背景

子育ての毎日は、大変。だけど、具体的な課題は明確に意識されていない。保護者が、1日の生活を、どのような気持ち・考えで、どのように行っていて、何がストレスで、どんなことに悩んでいるのか…を知り、課題を明らかにする必要がある。



調査概要

目的

「子育て」「家事」「仕事」の場面に着目し調査することで、保護者の「価値観」や「本質的な課題」を明らかにする

方式

オンライン（zoom）でのデプスインタビュー形式にて実施

期間

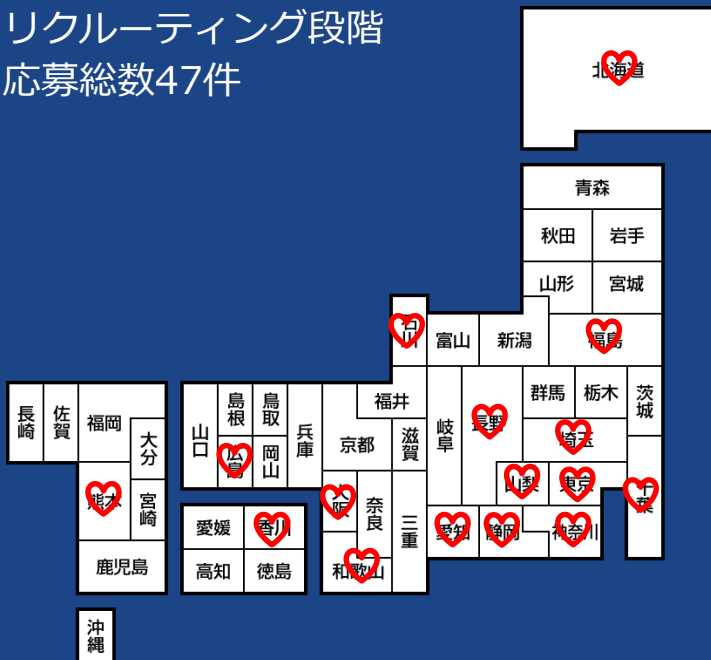
2022年9月1日～同年9月16日

対象者

0歳～5歳児のいる家庭の保護者（19名）

リクルーティング詳細




リクルーティング段階
応募総数47件



東京都、千葉県、埼玉県、
神奈川県、福島県、長野県、
愛知県、大阪府、熊本県
の19名に調査




2. 子育て・家事に関する保護者の状況・価値観

0～5歳児のいる家庭の保護者 平日の1日（例）

時間	感情	行動	子育て期特有の行動
0(24)			
1			
2			
3		就寝	夜間対応(授乳、夜泣き、おむつやトイレ等)
4			
5			
6		起床／洗濯／自分の身支度	子どもに朝食を食べさせる／こぼれたものの後始末／園の準備（体温を測る、記憶をたどりながら連絡帳を書き、着替えやタオル、エプロン、おむつ等を詰める）
7		朝食準備／朝食／片付け 洗濯干す／ゴミの仕分け	子どもの身支度（保湿、着替え、歯磨き、おむつやトイレ等） 園に送る
8		家を出る／ゴミ捨て	
9			
10		仕事	
11			

感情を持ちだすと嫌になるので、「無」です。頭の中はフル回転

朝はいつもバタバタです「もう出なきゃ！早く！」

時間	感情	行動	子育て期特有の行動
12			
13			
14			
15		仕事	
16			
17			
18		会社を出る／(買い物)／帰宅	子どもに夕食を食べさせる 園からの荷物の仕分け（着替えやタオルをわける、おむつを捨てる等）
19		洗濯物取り込む 夕食準備／夕食／片付け	お風呂に入れる／子どもの身支度（保湿、着替え、水分補給、歯磨き、おむつやトイレ等）
20		お風呂／お風呂掃除／自分の身支度	子どもを寝かしつける 園の準備（コップを洗う等） 片付け
21		洗濯物量む／衣類しまう	
22		就寝	夜泣き、トイレ等)
23			

子どもと向き合えるふとした瞬間に幸せを感じます

子が寝てくれない時は、寝たふりをします「早く寝てくれ・・・」

本ページでは、インタビューから見えた子育てと家事について 0～5歳児がいる家庭に共通して見られた保護者の価値観についてまとめる。



① 子育て・家事におけるベースにある価値観

- 子育ては親の責任、ちゃんとしなきゃ！
- 子どもの成長や喜んでいる姿が見られると、嬉しいだけでなく自分の自信にもなる
- 理由・根拠がないと自分が納得できない
- 他人に余計な心配や負担をかけたくない

- 「良い親」として、責任を果たさなければならないという思いがある。だからこそ、「ねばならない」タスクがたくさんある。正解があるわけではないので不安であり、これでよいのかと心配の中で子育てを行っているため、外野の心ない声に心が揺れることも。
- 子どもが自分の気持ちを伝えてくれたり、お出かけ先で喜んでいる姿を見ると、嬉しいだけでなく、保護者自身の自信にもなる。
- 家事のアウトソーシング化もアリだと考えているが、自分でできることにお金をかけることへの若干の抵抗があるため、費用対効果や子どもの様子等から慎重に検討する。自分が納得できる理由を探す。
- 園の先生には、気になることがあっても「些細なこと」と遠慮してなかなか聞けない。余計な心配や負担をかけたくない。または聞いても欲しい答えで無かったりするため、お互いの時間と労力がかかるのを避けている。

② 子育て・家事に対する思い

- 戦略的にやらないと一日が終わらない
- 子どもや家族のためを思っている、でも、独り相撲のようで、虚しさを感じることも
- 選択肢から、自分で決めるのが現実的
- 深く考えてる暇はない、無でやるしかない

- 平日は限られた時間の中で、最低限「食事、洗濯（清潔）、睡眠」は確保しなければならないと思っている。連続的な流れを組み立てて機械的に行動することで、自分のリズムを保っている。やりきった時は安心して眠れるが、やり残しがあると気になる。
- 子どもや家族には、ハッピーでいてほしい。色々工夫をするが、期待するような反応や対応は、返ってこないことがほとんどで、達成感が無い。
- 情報をたくさん集めたり、比較検討が当たり前。最終的には自分で決めるのが現実的だと考えている。しかし一方で他人の評価も気になる。
- 工程も多く、手間もかかることには「これって本当に必要？」と疑問を抱くが、園の準備なども、「そういうものなんだろう」と心を無にしてひたすら行う。ただ、他の園が身軽だと、「なんでうちだけ」とモヤモヤを抱く。

グループA：0～1歳児がいる家庭の保護者の価値観

全体

0-1歳児

2歳児以上

本ページでは、インタビューから見えた子育てと家事について、0～1歳児がいる家庭に見られた保護者の特徴的な価値観についてまとめる。



① 子育て・家事におけるベースにある価値観

- 「子どもは小さく、弱い存在」で、大人が守り、育てないといけないだろう
- 自分の子育てが、我が子の成長に与える影響は大きいのではないか
- 離乳食は子どもの最初の食事で大事なものだ

- ・ 少しでも子どもから目を離したり対応を間違えてしまうと死んでしまうのではないかと心配・緊張感が常にある。
- ・ 「小さな命を守るのは自分」という**責任感**は、**無言のプレッシャー**にもなり、自分で「ねばならないこと」を決め込んでいる。
- ・ 特に、子どもの食事に関しては、保護者が子どもの食事の栄養バランスを気にして「ちゃんと食べさせないといけない」という思いが強く、「ねばならないこと」の現れといえる。

② 子育て・家事に対する思い

- 日常の些細な判断など正解の無い問いが常にある。考えることが減るのなら、使えるものは使いたい
- 1日の流れを妨げられることは、ストレス
- 正直、自分の子育てに「自信」は無い

- ・ 子どもの安全に配慮をしつつ、簡単に判断できないことも多く、常に何かを考えて行動しているため、**心身が休まらない**。
- ・ 離乳食は、作り方などがよくわからないし、食材も特殊だし、手間の割に食べてくれないし、正直苦痛である。そのため、考えることが減るならば、冷食やレトルトなど**使えるものは活用したい**と思っている。
- ・ 授乳やオムツ替えがあったり、園に持っていき着替えや持ち物が多かったり、荷物を持って子どもを抱っこするとあまり多くは買えなかったり、子どもを早く寝かせなければと夕方の時間も慌てて過ぎたり……と、行動や時間が制限された生活を送っている。こうした「しなきゃいけないこと」を限られた時間内で全てこなすため、**戦略的にこなしたい**と考えてる。
- ・ 同年代の子どもが周りにおらず、成長の進捗度合いを確かめる術がないため、自分の子がちゃんと成長しているのか、大丈夫か、など漠然と気になる。

グループB：2歳以上児がいる家庭の保護者の価値観

全体

0-1歳児

2歳児以上

本ページでは、インタビューから見えた子育てと家事について、2歳以上児がいる家庭に見られた保護者の特徴的な価値観についてまとめる。



① 子育て・家事におけるベースにある価値観

- こだわりすぎると余裕がなくなるため、自分で決めた「しなきゃいけない」気持ちにもある程度折り合いをつけている
- 子どもを怒ってしまう、ということは「すべきでない」

- 子育てのこだわりはあるが、こだわりすぎると余裕がなくなるのは、この1～2年で経験済みなので、自分で決めた「しなきゃいけない」気持ちにある程度折り合いをつけている。
- 例えば、子どもの食事の栄養バランスは気になるが、優先順位は、乳児期より下がった。保育園の給食があるので、細かいバランスに頭を悩ますよりも、とにかく「食べてくれればOK」と思うのもその現れ。
- 余裕がなくなると、自分の思った通りに進まないことでイライラして子どもを怒ってしまう。そうなることは、子どもを傷つけてしまったり、可能性を狭めてしまうことにもなりかねない。そのため「すべきでない」と考えている。怒ってしまった時は後で、後悔するため、リカバリーを心掛けている

② 子育て・家事に対する思い

- 部屋が散らかっていると気持ちも落ち着かないし、どうにかしたい
- 子どもとの買い物は、疲れる
- 親の都合で子どもの可能性を狭めてしまっていないか心配

- 子の成長と比例して、衣類や玩具、写真、園で作った作品などが、溜まってきた。もう使わない物もたくさん。片付けたいと思うが、時間もやる気もなく、後回しになっている。しかし、気になってはいる。
- スーパーは子どもにとって誘惑が多く、一人でどこかへ行ってしまったり「これ買おっか！」と勝手に持ってきてしまったり、強くさわったり、「欲しい！」と駄々をこねたり……。買わなくていいものを買うことになったり、時間がかかってしまったり、周りの目が気になったりストレスを感じる。
- 少しでも時間ができたならば、(家事などをするより)子どもと一緒に過ごしたい。成長に伴い、言葉で伝えられるようになるなど、子ども自身のできることを、やりたいことが広がってきた。子どもの可能性を広げるため、習い事もはじめたいと考えているが、リソース的に子どものすべての希望に答えあげられない状況があることに罪悪感を感じる。

3. 問題を解決するために

問題① 「やってみよう！」という前向きな気持ちで子育てを始めるが、思い通りにいかない現実に関心が折れる。

離乳食は手間がかかる。 そして食べてくれない…

昨日食べたからといって
今日同じものを食べると
は限らない
(40代/gr.A)

料理すること自体は、どちら
らかといえば好きなんです
けど、最初のどろどろっと
した形状を作るのにちょっ
とやる気が出なかった。根
気強くやらなきゃいけない
ってのもやる気がないな
って (20代/gr.A)

わざわざ離乳食のためだけ
に、食材を買ったり、刻ん
だり、面倒くさいなって
(20代/gr.A)

「子どもにはちゃんと食べさ せなきゃ」という固定観念 がある…

食べることは大事なと思う
んで、極力作りたいなと思っ
ても、一番食べるのはマクド
ナルドのポテトだったり (30
代/gr.A)

大人だけならなんでもいいの
だけけど、子どもとなると、食
べやすさだったりとか、バラ
ンスを考慮しなければならな
いとかあり、考えることが多
いので面倒に感じます。(30
代/gr.A)

子どもが食べるのがゆっくり
なので、できたものから先に
食べ始めてもらう。もうとに
かく早く食べ終わってほしい
なって思います。(40代
/gr.A)

子どもと一緒にだと落ち着い て買い物できない…

誘惑が多いから、どうしても
思うとおりに歩いてくれない。
「あれがほしい」とか
(40代/gr.A)

子どもができて自分の好
きなタイミングで買い物
に行けない (30代
/gr.A)

子どもがいると、倍以上時
間がかかります。あとは
「これ何？」と商品に触っ
ちゃったり、カゴを持って
歩いて色んな人にぶつかっ
ちゃったりとか。(20代/gr.B)

成長の記録を残しておきた いが、写真がどんどん 増えて整理できない…

写真データの整理やアルバ
ム作成までたどり着かず間
もなく4歳です
(40代/gr.B)

やっぱりいいものは紙に印刷し
てアルバムに入れたいなってず
ーっと思っているんです。家族
の記録というか、子どもが大き
くなった時に見返せるようにし
たい。でも、なかなか時間が取
れていないです。(40代
/gr.B)

印刷するのはいいんですけど、
どれがいいかって選ぶのが億
劫だな。他の人から見たら大
した写真じゃないかもしれな
いけど、私としては面白いな
とかある (40代/gr.B)

園で作った製作物や衣類、 玩具がたまって家が 片付かない…

子どもの作ったものとか、
私捨てられないんです。折角
頑張って作ったしなああって、
ずっと残っちゃってて。第三
者に入ってもらわないと、私
ではどうにも (40代/gr.B)

おもちゃって飽きる、いつ
か絶対に使わなくなると思
っているの、そもそも買
いたくない。物を増やした
くない (20代/gr.A)

子どもが描いたお絵かきと
か塗り絵とか、そういうの
がたくさんあって。本当は
捨てちゃいたいんですけど、
捨てる子どもに怒られる
ので (40代/gr.B)

やることが多いから 「いつも通り」できるように 流れを決めている。 だけど、飽きる…

朝食は固定化しちゃったみ
たいなところがありますね。
夫婦で間違いないように、
考えなくて済むように。
(30代/gr.A)

できれば6時15分が20分
くらいには子どもを起こ
したい。上の子は自分で
食べてくれるけど、ゆっ
くりなので7時過ぎにはご
飯をスタートさせたい。
で、可能だったら7時20
分くらいには食事終わりに
したい。(40代/gr.A)

本当に分刻みのスケジュ
ールをこなしてる感が、
すごいので、何もしない
時間みたいなのがなくて、
つらいなって思うとこ
すかね。(30代/gr.B)

問題② 園に持っていく物が多いのは、 日々くり返されることで無意識のストレスに。

登降園時の荷物が多い。
清潔は大事だけど
洗濯物が増えるのは嫌...

持ち物に名前を書かなければいけない、忘れものをしてはいけないということがプレッシャーになっている...

朝・夜の時間が、
園の支度にとられる...

なんでこんないっぱい着替えるんだろって。びっくりして。全然汚れてないのに、3セット作ったの持って帰ってきて。小まめにやってくださってるんだなと思いつつ、「どこが汚れてるんだろ」とも思う。(30代/gr.A)

園の準備は、持ち物全部名前を書いて。夜に準備して、朝入れる。それが終わらないと用意していないと気になる。(40代/gr.A)

水筒洗ってとか、お箸セットとか、うがい用コップとか洗ってとか。細々したものがあ。大変！(40代/gr.A)

保育園だと頻繁にお着替えをしてくださっているので、洗濯物の量が増える。さらに干して、たたんでという時間を考えると大変(40代/gr.A)

名前を書いたものがちゃんとあるかなとか、上の子だと曜日によって体操服とか指定があるので、間に合うように洗濯しておかないとか。何曜日だからあれ用意しなきゃとか考えるのが面倒。(40代/gr.A)

一言で言うと「準備」と「支度」なんですけど、それってすごい結構、煩雑に色々ありますよね。(40代/gr.A)

金曜日はお布団とかを持って帰ってくるんですね。それと自分の荷物と、買い物したら買ひ物の袋。それで雨だと最悪です(30代/gr.B)

名前ハンコで遊んで顔とか手とか真っ黒にされると、洗うの面倒だし落ちないし。子どもがいない時にこっそりやります。(30代/gr.B)

別に感情もないですよ。まあ、無です。作業なんでそこに別に感情は伴っていません。(30代/gr.A)

夜寝かしつけの後、軽く手洗いをし、それで朝洗濯機にもう一回入れるっていう風になっています。お漏らしがなかった日はラッキー(30代/gr.B)

問題③ 「園での我が子の様子」がよくわからない！ 連絡帳は、なぜ書くのかどう書くのかわからない！

園での子どもの様子を
知りたいけど誰に
どう聞いたらいいのか
わからない...

子どもについて、知りたい
情報が具体的に
知らされていない...

連絡帳の目的が曖昧で、
苦手意識がある...

家でやれないことを園でちゃんとやれているのかなって気になりますよね。ちゃんとできているのかなって。園ではできているっぽいんですけど。それは家でもやってほしいなと思います。なんでうちではやんないのかな(40代/gr.A)

何をよく食べたか聞けると参考になりたいなと思うし、昼寝ができたかによって夜の寝方にもかかわるので、疲れてるかなとかの判断になったり(30代/gr.B)

昨日のこと思い出して、ネタがないなと思って書いてます。一生懸命考えてます。(30代/gr.B)

(先生) 忙しいですし、聞いてもあんまり、良い答えが返ってこないっていうのもあって。「大丈夫だと思えますよ。そんな気にされなくても」という返しの時、どういう点が気にしなくていいのか(20代/gr.A)

親からのメッセージ的なものを書かないといけないので、妻が頑張ってる。(20代/gr.B)

歌とか歌ってるんですけど、何の歌を歌ってるのか、なんの本が楽しかったとかわかんない。(40代/gr.A)

連絡帳に「製作をしました」と書かれていても、何を作ったのかとかがわからない。子どもに聞いても、よくわからない(30代/gr.A)

連絡帳、家で書く時間はないけど、園送るときに結構渋滞になるので、そのすきに書けるじゃん。(20代/gr.B)

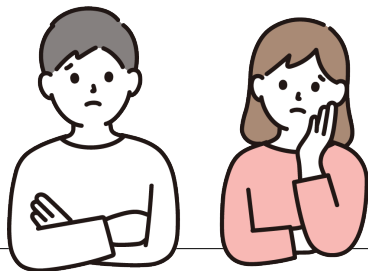
どんなおままごとをしているのかとか、どんな歌でどんな雰囲気か歌っているのか、どんな所でどんな風に走っているのを知りたい(40代/gr.B)

私が送り迎えをするから、準備は妻がということでも話合ってたことでも決めた。連絡帳を書くのがぼくは面倒くさいので(20代/gr.B)

問題①についての課題と解決の方向性

問題①

「やってみよう！」
という前向きな気持ちで子
育てを始めるが、
思い通りにいかない
現実に心が折れる



課題

「ねばならない」からの解放
“子育てを保護者だけの責任にしない社会”づくり



解決の方向性

保護者は決して、子育てをしたくないわけではない。
時間は限られても、子どものためにできることを自分たちで何とかしたいと思っている。
でもだから、疲れてしまう。苦しくなってしまう。

例えば、離乳食づくり。

つらいのは手間がかかることではなく、子どもが食べてくれないこと。

そして、「母親なら子どものために3食バランスのよい食事をつくるものだ」という神話のような社会通念による無言のプレッシャー。

しかし、「せっかく作った完璧な食事であっても子どもは食べないこともある」し、「手作りが絶対ではない」ということが社会の当たり前になれば、問題は努力が足りないという話ではないんだなという考えに切り替わり、保護者自身の「ねばならない、でもできない」ストレスが少しは緩和されるのではないだろうか。

私たちにできることは、例えば、お迎えをしてそのまま園でご飯を食べてから帰れたり、できたものを園で買って帰れたり、子育てを保護者だけの責任にするのではなく、園を起点に社会全体で子育てをする文化を作っていくことではないだろうか。

問題②についての課題と解決の方向性

問題②

園に持っていく物が
多いのは、
日々くり返されることで
無意識のストレスに



課題

保護者も園も頑張らなくていい
アウトソーシングの可能性を探る



解決の方向性

子どものためにオムツや服を小まめに替え、タオルで口や手を拭き、コップでお茶を飲んだり、お昼寝をしたり……どれも子どもにとって必要で意味のあること。
園の先生には感謝。けれど、帰宅した後の子どもと過ごす貴重な時間や少しほっとできる時間を削って、保護者が用意していることも事実。

園に持っていく荷物は、昔から慣習になっていて、「本当に必要なもの?」「本当に毎日持ち帰らないといけないもの?」という視点で、荷物の意味や目的を見直したことがある園は多くはないのだろうか。

例えば、園で使用する着替え。
園で使う服を洗濯して毎日届けてくれるサービスを取り入れれば、保護者が毎日着替えを用意する手間が省け、保育現場も着替えさせるときに間違えることを気にしなくてよくなる。

保護者が用意しているものをアウトソーシングできないか検討することで、保護者も園も負担を軽減することにつながるのではないか。

問題③についての課題と解決の方向性

問題③

「園での我が子の様子」が
よくわからない！
連絡帳は、なぜ書くのかど
う書くのか、
よくわからない！



課題

保護者が知りたいポイント・先生が知りたいポイント双方を踏
まえて、保護者も園も満足できるコミュニケーションを探る



解決の方向性

保護者は平日、子どもと一緒に過ごす時間が短いため、自分の子どもへの関心や意識、園の保育への期待が高く、園で自分の子どもがどのように過ごしているのを知りたいという欲求が強い。その根底にあるのは、「親子で楽しい時間を持ちたい！」「子どもとの時間をもっと充実させたい！」という思い。園での自分の子どもの様子や、子どもの好きなものやハマっていること、喜ぶものなどを知り、子どもと話しをしたり、家族で一緒に楽しみたいのだ。

先生が日々行っている連絡帳やドキュメンテーション、送迎時の一言などをひと工夫して、保護者が知りたいポイントを踏まえて子どもの様子を伝えることができれば、保護者のニーズに応えることにつながるのではないだろうか。園の様子が具体的にわかることで、保護者と先生の話のきっかけや、園の保育を伝えるきっかけにもなりうるのではないだろうか。

また、連絡帳に書いた内容について先生に何か言われるのではないかと心配や、連絡帳に書くためにちゃんと子育てしないといけないという無意識のプレッシャーが、連絡帳への苦手意識や負担感につながってしまっているのではないかと。

園が家庭から伝えてもらいたいことがわかり、どう活用されるのか目的や背景がわかれば、連絡帳への苦手意識も軽減されるのではないだろうか。

双方が求めている知りたいポイントが簡単に書ける連絡帳の仕組みがあれば、お互いが満足できる情報交換ができるのではないだろうか。

4. 終わりに

終わりに

今回調査をした結果、

- 保護者は「良い親」として、責任を果たさなければならないという思いがあり、自分で作った「ねばならない」タスクが沢山ある。
- 知らず知らずを感じる「子育ては親がするものだ」という社会通念が、無言のプレッシャーになっている。
- 自分でできることにお金をかけることへの若干の抵抗があるため、費用対効果や子どもの様子等から、自分が納得できる理由を探し、慎重に検討すること。
- 子どもが自分の気持ちを伝えてくれたり、喜んでる姿を見ると、嬉しいだけでなく、保護者自身の自信にもつながる。
- 一緒に過ごせる時間が限られているからこそ、我が子のことを具体的に知りたい。
- 園の準備などは「これって本当に必要？」と疑問を抱きながらも、考える余裕がなく無の気持ちで行っているが、無意識のストレスになっている。
- イライラして怒ってしまうことは、子どもを傷つけてしまったり、可能性を狭めてしまうことにもなりかねないため「すべきでない」と考えている。しかし、無意識に溜まったストレス、無言のプレッシャーに、余裕がなくなり怒ってしまい、後で後悔する。

などがわかりました。

今回の調査では、子育てと家事という場面における「保護者」の視点に着目しました。私たちは、一つの視点だけでなく、少しずつ視点を変えて、子育てをする立場、子育てを支える立場など多角的な視点から課題を見つめることを推進していきたいと考えます。

私たちは今後、この調査結果をもとに、子どもたちの健やかな育ちを支える企業として様々な角度から事業を検討していくことで、子どもに優しい社会をつくっていきたいと考えています。